た平田厚志「美濃古義派騒動」（『日本宗教文化史研究』七・二、二〇〇三年）や、「三業惑乱の裁判は驚くほど公正に執り行われた」（七六頁）として幕府の宗教的中立性を指摘した島津恵正「三業惑乱研究序説」（朝枝善照先生華甲記念論文集刊行会編『仏教と人間社会の研究』永田文昌堂、二〇〇四年）などがある。

そして第三に、書物論を踏まえた思想研究も新たな地平を拓くことだろう。つまり、書物等を媒介として流通した言説に着目することで、従来の教学史とは異なる思想史像を構築するわけである。三業惑乱は実のところ本稿冒頭の整理に収まらない複雑な思想的展開をみたが、上記の方法はその分析に堪えるものであり、近世史研究との接続も更に進むものと期待される。この点と関わり注目すべき論文に、小林准士「三業惑乱と京都本屋仲間――『興復記』出版の波紋」（『書物・出版と社会変容』九、二〇一〇年）がある。小林は東西本願寺派の寺院・僧侶のみならず幕府や本屋仲間の各方針、及びそれらの相互関係についても分析し、三業惑乱という素材を近世社会論に接続している。また、小林の報告「神祇礼拝論争と近世真宗の異端性――讃岐国における了空・教乗論争の検討を通じて」（龍谷大学仏教文化研究所研究談話会、二〇一一年九月）では、内面と外面の一致・不一致の観点より、三業惑乱研究の前提ともなる興味深い思想分析が提示された。今後の更なる成果が俟たれる。

おわりに

これまで述べてきたように、三業惑乱研究は先学による蓄積の厖大さもさることながら、近世史研究と繋げてゆく余地も大いに残されている。その進展は、新たな三業惑乱像の構築を実現するのみならず、近世史像の見直しにも少なからず寄与し得るものと考えられる。

近年盛り上がりの顕著な近世宗教史研究の成果の一つである『近世の宗教と社会』全三巻（吉川弘文館、二〇〇八年）は、各巻を「地域のひろがりと宗教」（第一巻）、「国家権力と宗教」（第二巻）、「民衆の〈知〉と宗教」（第三巻）と題し関連論文を収録しているが、本稿で問題提起した第一から第三までの諸点を踏まえるならば、三業惑乱研究は同書各巻の論点を横断し得るものといえる。以上のような意味でも、大きな可能性を秘めた研究領域なのである。

また最近、大桑斉は救済宗教論の必要性を主張したが（大桑「幕藩権力と真宗」〈『国史学研究』三二、龍谷大学国史学研究会、二〇〇九年〉）、「救済」或いは「生と死」に関わる知見を歴史に即して獲得する上でも、三業惑乱研究が裨益するところは少なくないだろう。

こうした可能性を有する研究の推進に当たっては、個人研究だけにとどまることなく、共同研究の組織も望まれることを、最後に述べておきたい。

【付記】

本稿は、二〇一〇年一一月一九日の龍谷大学仏教文化研究所研究談話会での報告をもとにまとめたものである。報告に対し貴重なご意見を下さった皆様、そして調査に際しお世話になった五十香正英氏に、深く感謝申し上げます。なお本稿は、日本学術振興会の平成二三年度科学研究費補助金（特別研究員奨励費）による研究成果の一部である。

◇研究概要報告◇

平成二十三（二〇一一）年度本研究所の研究計画は、指定研究二件（継続一、新規一）、常設研究三件（継続二、新規一）、特別指定研究三件（継続三）、共同研究四件（継続二、新規二）、そして個人研究一件（新規一）が設置され、合計十三件の研究プロジェクトが構成された。次に示すような具体的な計画のもと、総研究員数二二九名の協力によって推進される。

本研究所が創設五十周年をむかえ、その記念事業として七月八日に記念講演会を開催し、マーク・ブラム氏、三角洋一氏、蓑輪顕量氏にご講演いただいた。

研究成果として『佛教文化研究所紀要』第五十集に共同研究他の報告論文六編の他、研究所創設五十周年記念講演会および仏教文化講演会の講演記録を収めた。仏教文化研究叢書としては、『問答と論争の仏教―宗教的コミュニケーションの射程―』（責任編集者　マルティン　レップ氏・井上善幸氏）、『典籍と史料』（責任編集者　大取一馬氏）が出版された。永年の研究成果によるものである。

A　指定研究（龍谷大学図書館蔵の貴重書の研究・出版）

1、国史学　「西本願寺宗意惑乱一件」文書を読み解く（三年次）

主任・平田　厚志　　研究員七名

（研究の目的）　龍谷大学大宮図書館に「西本願寺宗意惑乱一件」と題する全十六冊からなる古文書（写）が所蔵されている。本文書は、いわゆる「三業惑乱」騒動が発生した享和元年から騒動の終結に至る文化八年までの期間に記された「伺書」「答書」「趣意書」など、さまざまな個別文書を時系列的に全十六冊に収録したも

ので、「三業惑乱」騒動の全容を解明するための基本史料ともいえる貴重な史料である。本文書の解読と翻刻は、「三業惑乱」研究にとって不可欠であり、真宗教学史・教団史・教育史・思想史の研究者が、それぞれ専門分野の視点から読み解いて行こうとするものである。全作業を終了して翻刻の段階を迎えるまでには三～四年の期間を要すると思われるが、今年度は、四～五冊読み了え、そのうちの重要文書に頭注・補注を付して、『仏文研紀要』誌上にその成果を報告できるようにしたい。また、第一冊の全文を翻刻し、刊行することをあわせて今年度の目標としたい。

（研究計画）

近世西本願寺三大法論のうち、最大規模のものといわれる「三業惑乱」に関する基本史料である「西本願寺宗意惑乱一件」文書（全十六冊）を三年間三期に分けて読み解く予定である。すなわち第一期（二〇〇九年度）で、まず五冊（「一件」文書、一～五）、第二期（二〇一〇年度）で五冊（「一件」文書、六～十）、第三期（二〇一一年度）で残り六冊（「一件」文書、十一～十六）を原稿化する。その間、頭注・補注を作成し、かつ解読論文も順次作成して『仏文研研究紀要』で公表して行く。そして、二〇一二年度中に、龍谷大学仏教文化研究所善本叢書として刊行する予定である。

2、日本語日本文学　龍谷大学図書館蔵中世歌書の研究（一年次）

主任・大取一馬　研究員三二名

（研究の目的）

本研究では、本学大宮図書館に所蔵する中世歌書の中、最善本と思われる「光蘭百首」「愚見抄」「詞字注」「後鳥羽院自讃歌注」「九代抄」の五点を対象として研究、これを三年後に善本叢書として刊行することを目的とする。

まず一年目は対象とした典籍の写真撮影をし、紙焼を手元に置いて、それをもって他の伝本との比較研究をし、本学所蔵本の価値を明らかにする。

二年目も伝本研究を引き続き行いながら、主に作品内容の読解を通して、内容上の意義を明らかにする。その成果を本研究所紀要に掲載する。

三年目には二年間の研究を集約して、五点の典籍の影印に解説を付して善本叢書を刊行する予定である。

（研究計画）

上記に三年間の研究計画とその方法を略述したが、本研究では、実際に資料の内容検討を通して、同類の伝本中での位置付けと、内容上の意義を明らかにすることにしたい。また、各資料が日本和歌史の上でどのように位置付けることができるのかについても合わせて考察したい。それには当該資料の検討だけではなく、広く和歌史の勉強も合わせてする必要があるものと考えている。

尚、三年目に善本叢書を出版した後、四年目には、三年間の研究成果として研究者全員で原稿を執筆して研究叢書を出す予定にしている。

B　共同研究

1、仏教学　梵語仏典写本の研究（二年次）

主任・桂紹隆　研究員九名

（研究の目的）

本プロジェクトの最終目標は、現在中国で次々と再発見されつつある梵語仏典写本を中国と日本の仏教研究者が協力して研究し、批判的校訂を出版し、世界の仏教学界に貢献するための両国学界の協力体制を確立することにある。そのためには、まずチベットの僧院で保存されてきた梵語仏典写本の写真データを大量に保管している北京の中国蔵学研究中心と日本における仏教研究の中核の役割を担い続けてきた龍谷大學との間で、同中心がオーストリア学士院やハンブルク大学と結んだのと同様の正式な研究協力協定を締結する必要がある。それを実現するためには、互いに相手の胸襟を開かせるための親密な人的交流が必要である。

後述するように、二〇〇八年に藏学研究中心で開催された国際チベット学会への桂の出席を端緒として始まった同中心と本学との学的交流は、昨年中に実現した同宗教研究所長ダンドゥル教授及び同研究員李学竹博士の本学招聘並びに桂・若原両名の同中心訪問によって確実なものとなった。プロジェクト初年

度の本年も既に中国人研究者二名の招聘と桂他三名の北京再訪が決定しているが、二年目となる来年度はこの良好な関係を更に深めると共に、本来の目的たる写本研究を進め成果を公表する。

既に再来日している李博士は、これまでチベット語訳でしか研究されてこなかった大乗経典・論書の梵語原典写本の写真を持参し、桂・若原・藤田との協力の下に、校訂・出版する。具体的には、残りの研究期間内に、少なくとも二種の新しい梵語仏典写本の校訂作業を完了する。

本研究プロジェクトはこの二年を以て完結するものではなく、今後も李博士を始めとする中国人若手研究者が毎年龍谷大學に一定期間滞在して貴重な梵語仏典写本を日本人研究者と共同研究出来るよう長期的体制を確立し、斯学の一層の発展に寄与せんとするものであることを付記しておく。

主たる研究目的である中国蔵学研究中心と本学との人的交流を更に推進する。本年度は十月末に桂、若原、斉藤明博士の三名が李博士と共に蔵学研究中心を訪問し、研究発表・資料調査等を行う。来年度も引き続き桂・若原両名に他の研究者を加えて同中心訪問を重ね交流の実を挙げる。

李博士は龍谷大學沼田研究奨学金の交付を得て既に本年九月より七ヶ月間の予定で来学中であり、藤田祥道博士との共同研究により、蔵学中心所蔵の『五百頌般若経』梵文写本の校訂作業を進めている。本年度中に版下を用意し、来年度には蔵学研究中心から公刊する。来年度も同様に『入中論偈頌』など新たな写本を李博士が持参し、李博士が準備した写本の翻刻を藤田博士がチベット語訳・漢訳と対比して、批判的校訂本を作成する。

上記の結果は、桂、若原が点検し、蔵学研究中心から出版可能な状態にする。写本の種別に応じて、梵語仏典写本研究の第一人者である仏教大学松田和信教授、蔵学研究中心との共同研究による写本校訂出版に顕著な業績をあげられた人文情報学研究所主席研究員苦米地等流博士、中観仏教研究の権威である東京大学の斉藤明教授、ネパール写本を中心として梵文写本全般に精通される京都大学文学研究科Diwakar Acharya教授から助言して頂く。

2、真宗学　三業惑乱関連書籍の翻刻と註釈（二年次）

主任・殿内　恒　研究員六名

（研究の目的）

江戸幕府は宗教統制政策の一環として、仏教諸宗派の学問を奨励したが、実際の宗学研鑽は、研究教授機関の整備、修学体系の制度化、さらには印刷技術や出版事業によって可能となった。本研究は、近世における仏教研究と出版事業との関わりの一端を、浄土真宗本願寺派の教学論争である三業惑乱を手がかりに窺うものである。

三業惑乱は、本願寺派第六代能化功存（一七二〇～一七九六）が著した『願生帰命弁』（一七六四刊）に対する批判から始まったと言える。やがて天明年間になると、大麟（生没年不詳）や宝厳（生没年不詳）によって批判書が出され、以後十数年にわたり、主として批判論駁書の刊行を通して論争が繰り広げられていった。

しかしながら、従来の研究では『願生帰命弁』と、その論駁書である大瀛（一七五九～一八〇四）の『横超直道金剛錍』（一八〇一刊）のみに研究が集中し、『横超直道金剛錍』が出版されるまでの論争書のほとんどは、和綴本のまま翻刻されていない状況である。

本計画は、『横超直道金剛錍』が出版されるまでの論争書から代表的なものを翻刻し、併せて註釈的研究を行い、それらを公開していくことを目的とする研究の一環である。具体的には、三業惑乱に関連する第一次資料群を広く公開し、研究の一助とすることが本研究プロジェクトの第一次目標であり、従来の研究で等閑に付されがちであった、論争に関する書籍群の内容研究を行うことが第二次目標である。

この研究目的を達成するために、二〇〇八年度に一年間の期限で共同研究を行い、二〇〇九年度に殿内恒・井上善幸がそれぞれ個人研究を行った。二〇一〇年度からは、これまでの研究

によって蓄積された成果を基盤としつつ、より包括的な研究へと進展させるべく新たに共同研究を始めており、二〇一一年度もその継続を申請するものである。

これまでに遂行している研究と、今後予定される研究計画は以下の通りである。

二〇〇八年度共同研究：「近世仏教における教学論争と書籍の刊行―三業惑乱を中心に―」

・『願生帰命弁』の翻刻ならびに註釈的研究

・『願生帰命弁』への第一次批判書の翻刻ならびに註釈的研究

二〇〇九年度個人研究：殿内恒「三業惑乱関連書籍の翻刻と注釈」

・『願生帰命弁』翻刻データに基づく本文・註釈作成

・第一次批判書翻刻データの作成、本文・註釈の検討

・学林側からの第一次批判書への論駁書の調査・収集

二〇〇九年度個人研究：井上善幸「大瀛『浄土真宗金剛錍』と『横超直道金剛錍』の対照翻刻」

・『金剛錍』諸本の収集

・『浄土真宗金剛錍』の本文データの入力及び校正

・『横超直道金剛錍』の本文データの入力及び校正

・『浄土真宗金剛錍』から『横超直道金剛錍』に至る諸本の比較検討

二〇一〇年度共同研究：「三業惑乱関連書籍の翻刻と註釈」

・第二次批判書群の調査・収集翻刻ならびに註釈的研究

・第二次批判書群に対する学林側の論駁書の調査・収集

二〇一一年度共同研究：「三業惑乱関連書籍の翻刻と註釈」

（継続）

・第二次批判書群に対する学林側の論駁書の翻刻ならびに註釈的研究

・論争に関する諸文献の内容研究に向けた基盤形成研究

3、教育学　悩みに対する宗教的・心理的アプローチに関する研究（一年次）

主任・吉川　悟　研究員一〇名

（研究の目的）

人間は悩みを持つ動物である。そして、その悩みを解決することで精神的に進化してきたといえる。その人間の持つ悩みは大きく分けて二種類ある。一つは宗教的な悩みであり、もう一つは心理的な悩みである。この宗教的な悩みは、仏教でいう四苦八苦すなわち生苦、老苦、病苦、死苦、愛別離苦、怨憎会苦、求不得苦、五蘊盛苦などであり、特に死に対する悩みが中心である。これに対して心理的な悩みは、日常生活における個々の悩みであり、この世を如何に生きていくのかが中心となる。

また従来の日本では、人々の悩みについての解決方法として、各々の檀家寺の住職に相談するという伝統があった。しかし近年、社会が近代化され、その構造が複雑になるに従い、人々の悩みも多様化し、単なる人間性や経験だけでは対応しきれなくなってきた。このため、人々の悩みに対応するには、一定の知識と技術が要求され、今日、多種多様な臨床心理学的アプローチ（カウンセリング）という概念ができあがり発展した。

そこで本研究では、生死を中心とした宗教的な悩みに対するアプローチ（関り）と日常生活を中心とした心理的悩みに対するアプローチの接点および相違点を明らかにするとともに、宗教活動と悩みの相談活動の統合を試みるものである。

（研究計画）

〈初年度〉

宗教的悩みと心理学的悩みの研究

人として生れたことにより、全人類共通の課題であり誰しもがもつ生死の問題を宗教的悩みの中心と考え、その悩みに対する解決方法のあり方を、仏教特に浄土真宗の教義の観点から分析する。また、日常生活に起因するそれぞれの人によって異なる心理的な悩みに対する解決方法のあり方を、非指示的療法の観点から分析する。

〈次年度〉

宗教的悩みの解決過程と心理学的悩みの解決過程を、具体的な事例をとおし検証し、その接点と相違点について考察を加える。

4、仏教史学　隋代における造塔・造像銘文の調査・研究（一年次）

主任・佐藤　智水　　研究員七名

（研究の目的）

本研究は、三百年にわたる分裂状況を統一した隋王朝が、南北に分かれて展開した南北朝仏教を統合すると共に新たな展開をみせるそのありさまを、文献資料に加えて、造寺・造塔・造像銘文の収集整理によって、隋代仏教の研究を一歩進めることを目的とする。

南北朝～隋という時代は、仏教が中国全土に広まって、寺院のほか石仏・石塔や石窟が無数に造られ（唐の法琳『弁正論』によれば隋後期までに百五十万体以上という）、それらに刻まれた銘文史料は飛躍的に豊富となる時代である。これらの銘文史料は、地域状況と密接にかかわる仏教のあり方、そして人間関係・ネットワーク・情報の流れ・支配構造など地域に展開する社会像を模索することが可能である、というのが本研究の基本的視座である。

また、隋代は遣隋使を通して我が国との関係が緊密化する時代であり、その意味でも中国に展開した仏教と日本仏教との関係を知る手掛かりともなりうるものである。

到達目標は、隋代における造寺・造塔・造像銘文の目録作成、及び新史料に基づく考察である。

（研究計画）

初年度は、主として旧北斉領域にあたる河北省・山東省・山西省・河南省地域の現地調査を行い、未紹介の石窟や遺跡、仏教文物の史料を収集する。

また、従来紹介されている遺跡・文物の所在確認と写真撮影・移録・拓本収集を行う。

次年度は、主として旧北周領域にあたる陝西省・甘粛省・四川省地域の現地調査を行い、未紹介の石窟や遺跡、仏教文物の史料を収集する。

C　常設研究

1、真宗学　現代社会と浄土真宗（三年次）

主任・林　智康　　研究員二二名

（研究の目的）

混迷する現代社会において、浄土真宗の教えはどのように対応できるのか、また、苦悩する現代の人々を真宗の教学者は、いかに教え導くことが出来るのか。浄土真宗の教えの伝統を踏まえて、現代社会の諸問題に積極的に取り組み、各専門の領域の分野からの研究を進め、現代教学の樹立を試みたい。

現代社会の諸問題として具体的には、生命・環境・人権・家族・倫理・科学・平和・諸宗教等、様々な内容が考えられる。これらの諸問題は、現代社会を生きる人間にとって、直接・間接ともに深く関わっており、避けて通れない重要な課題である。そのため、各研究員の専門分野から問題の所在を明らかにし、研究を進めていく。

平成二十一年度四月に、大学院において従来の文学研究科真宗学専攻に加えて、実践真宗学研究科実践真宗学専攻が開設された。それに伴って、真宗学科に所属する専任教員・特任教員と、実践真宗学研究科に所属する教員が、直接的あるいは間接的に連携し、相互に協力して、研究の成果を教育に還元すべくプロジェクトを遂行していく。

それらの研究成果を統合し、現代社会が抱える様々な問題に対して、真宗の立場から提言をなすことが最終的な到達目標である。

（研究計画）

研究員の専門分野ごとにグループを作り、研究員が、それぞれ関心のある問題を中心に研究テーマを決め、研究会を定期的に開催することで、相互に研究内容を深めていく。

・浄土教理史：川添泰信・殿内恒・井上善幸・高田文英・井上見淳

・真宗教義学：内藤知康・那須英勝・杉岡孝紀・武田晋・玉木興慈

・真宗教学史：林智康・龍溪章雄・藤能成・岩田真美

・真宗伝道学：深川宣暢・デニスヒロタ・嵩満也・鍋島直樹・清岡隆文・田畑正久・吾勝常行・葛野洋明

初年度（二〇〇九年度）は、基礎的研究として、これまでの研究成果・資料を網羅的に収集し、先行研究を批判的に考察する。具体的には、研究員個々の専門領域（時代・分野）におけ

る、これまでの成果と今後の課題を明確にする。

次年度（二〇一〇年度）は、引き続き研究成果・資料の収集を継続しつつ、前年度までの成果を基礎として、過年度までの真宗学科常設研究「真宗伝道学の研究」「教理史における実践学の研究」「浄土教における救済思想の展開」の成果を援用し、各部門の研究グループに於いて発表をおこなうことを通して、研究員相互が問題意識を共有し、現代社会のかかえる諸問題を包みながら、浄土教における救済思想の意義を研究する。

最終年度（二〇一一年度）は、各グループごとの研究談話会の継続とともに、印度学佛教学会でのパネル発表・各種学会での研究発表・論文執筆を行い、研究成果をまとめる。また、資料収集の整理を行う。

2、仏教学　唯識思想の研究（三年次）

主任・芳村　博実　　研究員二八名

（研究の目的）

唯識思想は、中観思想と並んでインド大乗仏教の根幹を成す思想である。それは、真諦や玄奘によって中国の地に紹介され、玄奘の弟子窺基によって法相宗として確立される。さらに、道昭らの入唐僧によって日本に伝えられ、南都六宗の一つとして法相唯識の思想は興福寺を中心に隆盛を極めた。

本研究の最終的な目的は、インドに発し、中国を経て、日本に伝わった唯識思想を歴史的・総合的に明らかにすることである。期間内の具体的な到達目標は、「研究計画・方法」の項で述べるように、既に進行中の『大乗荘厳経論』の文献学的研究によってインドにおける初期唯識思想の本質を明らかにすることである。また、これと並行して、中期および後期のインド唯識思想について、それぞれの役割分担者が独自の研究を進めて行く。中国唯識思想については、主として長谷川岳史が担当する。日本唯識思想については、楠淳證が現在進行中の研究を続行する。また、本研究組織に加わった、中国・日本唯識研究者ザイレ・フロリアン氏、新羅唯識研究者ジョン・ビョンジョ氏らに期待している。

具体的な成果としては、既に昨年七月に『大乗荘厳経論』第一章ならびに第九章の翻訳研究（能仁正顕編『「大乗荘厳経論」第Ⅰ章の和訳と注解―大乗の確立―』；内藤昭文『「大乗荘厳経論」「菩提品」の講読―和訳と註解―』）を出版したが、来年度も第十七章の翻訳研究の公表に向け、現在の校正作業を続行する。また、最終章等の重要章の翻訳研究を完成させる。さらに『仏教文化研究所紀要』に研究参加者が学術論文を寄稿する。

（研究計画）

『大乗荘厳経論』の翻訳研究は、学期中の毎週木曜夕方に三時間程度大宮学舎にて行っている。参加メンバーは、研究組織を構成する芳村博実、桂紹隆、若原雄昭、能仁正顕、岡本健資のほか、荒牧典俊教授（京都大学名誉教授・本学非常勤講師）、早島理教授（滋賀医科大学）、加納和雄助教（高野山大学）、さらに、本学非常勤講師である内藤昭文、乗山悟、那須良彦、元非常勤講師である藤田祥道の諸氏が常時参加している。また、毛利俊英（筑紫女学園大学非常勤講師）、大西薫（関西大学非常勤講師）、岩本明美（南山宗教文化研究所非常勤研究員）、五島清隆（仏教大学・同志社大学非常勤講師）、神子上惠生（本学名誉教授）、那須円照（本学元非常勤講師）などが随時参加している。来年度も、これら諸氏には研究協力者として本プロジェクトに参加していただく予定である。

翻訳研究は、来年度も、故長尾雅人先生が遺された『大乗荘厳経論』の研究ノートを出発点とし、荒牧教授が独自に提案した翻訳を全参加者が検討し、毎回最も適切と思われる翻訳を作成する。同時に、主として若原と藤田が常に諸写本との照合を行い、テキスト校訂を行う。具体的研究内容に関しては、初期唯識思想の本質と言い得る「大悲」を説く『大乗荘厳経論』第十七章の翻訳研究の出版に向けた校正作業ならびに、同テキストの集大成である最終章の翻訳研究を行う。これと平行して、芳村博実、桂紹隆、長谷川岳史、楠淳證は、それぞれインド中期唯識思想、インド後期唯識思想、中国唯識思想、日本唯識思想の研究を独自に続行する。以上の研究の成果は、『仏教文化研究所紀要』・『仏教学研究』・『龍谷大学論集』等の各種学会誌

に各自が発表していく。また、芳村博実は、研究代表者として常にプロジェクト全体の進捗状況を点検し、研究談話会を開催し研究成果を公開する。

3、仏教史学　親鸞像の歴史的変遷に関する研究（一年次）

主任・赤松　徹眞　　研究員一一名

（研究の目的）

本研究は、親鸞像の歴史的変遷を文献・図像・木像などの史料を精緻に分析することによって、その変遷のなかに親鸞像の社会的定着を明らかにすることを目的とする。とりわけ、中世での親鸞の実像を起点に、その後の親鸞像は同時に教団形成と関わって親鸞像が描かれ、記録され、語られ、社会的に定着してきた。しかしながら、教団形成に関わって形成された親鸞像は、近代以降の歴史観の多様性にともなって、教団が形成してきた親鸞像とは相違する親鸞像が描かれ、論じられてきた。

そのような動向のなかで、本研究は、親鸞像の歴史的変遷を文献・図像・木像などの検討から、歴史的過程・背景とともに親鸞像の歴史的変遷を実証的に明らかにしつつ、親鸞像の宗教的立場と歴史社会との関係性について知見を提起しようとするものである。

初年度は、長年培われた親鸞像を整理するため、必要な史料を広く収集し、文献・図像・木像などの研究史を分析・検討する。

二年度は、親鸞像の歴史的変遷について、引き続き研究史の分析・検討を加える。

三年度は、親鸞像の歴史的変遷を整理して、本研究目的を達成する。

（研究計画）

本研究は、親鸞像の実像を起点にすることはいうまでもない。したがって、十三世紀前後の歴史社会および親鸞を取り巻く仏教的環境を踏まえて、専修念仏に帰依して生涯を歩んだ親鸞の実像を明確にする。その実像を起点に親鸞像の歴史的変遷を分析するには、諸本がある『親鸞伝絵』の親鸞像を分析・検討することをはじめ、「鏡御影」などの影像や木像などの検討が欠かせない。その後の教団形成のなかで、一定の親鸞像が形成されてきた。したがって、本研究を推進するには、文献・記録・図像などの収集による親鸞像の整理が必要となるため、組織的な研究の取り組みが欠かせないと考える。さらに、その親鸞像には、親鸞の宗教的立場と社会との関係がどのようなものであったのかという方法意識をもって整理する。

さらに、近代の歴史社会は、歴史像の多様性を生みだし、教団の描いた親鸞像を相対化する親鸞像が語られ、記録されたが、それらは多様な親鸞像を生み出すものであったため、文献・記録などの収集、整理・検討が必要となる。

本研究に文献・図像・木像などの整理が欠かせないため、史料調査をふくめて取り組んでいきたい。

D　特別指定研究

1、大谷探検隊将来資料の総合的研究

主任・入澤　崇　　研究員五九名

（研究の目的・計画）

本研究は大谷探検隊が中央アジアで収集した資料の全容を明らかにすることを目的とする。半世紀の歴史を有する本研究会がかつて出版した『西域文化研究』全六巻はわが国における西域研究の基盤を作り上げたばかりか、国際的にも評価の高い、まさに西域学の一大金字塔であった。しかし、近年の内外における西域学の進展は目を見張るものがあり、『西域文化研究』はそろそろ過去のものとなりつつある。そこで本研究会は長期計画（二〇一一年度～二〇二一年度）の到達目標として、近年の研究成果を盛り込んだ新たなる『西域文化研究』の刊行を掲げる。その目標を実現するために、以下の四つの班を編成し準備にあたる。

①大谷探検隊将来文字資料の調査研究（代表：三谷真澄）

本研究会の伝統である写本研究を継続して行い、「トルファン写本」「敦煌写本」の研究を主になす。二〇〇二年より旅順博物館との共同研究が開始され、旅順博物館所蔵の大谷探検隊将来資料の調査研究が本格化してきた。同館所蔵の二六〇〇〇点にも及ぶ漢文仏典写本の同定作業は日中双方で遂

行された。

二〇一一年度は昨年に引き続き、同館所蔵の非漢字資料の調査研究にあたる。

②西域仏教美術の調査研究（代表：宮治昭）

大谷探検隊が収集した美術資料の研究を主としつつ、西域仏教美術の総合的研究を目指す。大谷探検隊がもたらした美術資料は主に東京国立博物館と韓国中央国立博物館に所蔵されているが、中国の旅順博物館にも第一次大谷探検隊が収集したインド・ガンダーラの彫刻及び西域の壁画が所蔵されており、二〇一一年度はそれらの資料を研究対象とする。

③モンゴル仏教寺院址の調査研究（代表：村岡倫）

第二次大谷探検隊の行ったモンゴル調査の検証をなす。第二次大谷探検谷によるモンゴル調査はモンゴル研究の先駆をなしながら、これまで十分に検証がなされてこなかった。近年、大谷大学のチーム（代表：松川節）が現地調査を敢行し、研究の先鞭をつけた。大谷大学とも連携をとりながら、二〇一一年度は第二次大谷探検隊のエルデニゾー寺院の調査を検証していく。

④西域仏教遺跡と大谷探検隊の調査研究（代表：入澤崇）

大谷探検隊が目指した仏教の広がりを探求する精神を継承し、西域仏教遺跡の総合的研究をなす。同時に、近代史における大谷探検隊及び大谷光瑞の意義を深く探っていく。二〇一一年度はイルハン朝下の仏教の動向を探るべくトルコ東部アフラット周辺の遺跡調査、及び門主辞任後の大谷光瑞がトルコにおいて産業を育成しようとしたトルコ支援の実態を検証していく。

2、大正新脩大蔵経の学術用語に関する研究

主任・淺田　正博　研究員一七名

（研究の目的・計画）

本研究を推進する大蔵経学術用語研究会の目的は、大正新脩大蔵経を中心とする漢文仏典中の重要語を抽出・整理し、分析・研究を加えることにある。漢文仏典中の重要語とは「仏教要語」とほぼ同義であるが、本研究会では、辞書的説明に依存せず、文献そのものからその要語の意味を抽出し、使用法等を分析することによって、その要語の意味する内容が地域や時代に応じてどのような変遷をたどったのか研究する。二〇一一年度も前年度に引き続き、二種類のテーマを求めてそれを追求したい。その一は、二〇〇九年より進めている戒律関係用語の研究で、『戒律事典』（仮称）の出版を目指したい。そして他の一つは二〇一〇年より開始した「仏教における生死観に関する学術用語の研究」である。

第一の戒律関係用語の研究では、ここ数年、本研究会の主たる事業であった『戒律事典』の出版事業を進めていく。今現在、土橋先生の原稿を整理し終え、出典の調査や意味内容の検討などの修正・加筆を加えている。二〇一一年度は、前年度と同様に、月に一度の研究会を設け、各研究員が十項目ほど修正と加筆を加えてきたものを全体で討議していき、『戒律事典』の準備を進めていきたいと考えている。

第二の「仏教における生死観に関する学術用語の研究」では、戒律事典出版後の研究の基礎的準備である。これは現在社会問題ともなっている「自殺」や「安楽死」などの問題を含めた「生死」に関する仏教用語に焦点をあてて考察し、経典の原意と註疏類の解釈を求める中においてこの「生死」の問題を仏教は如何に理解するかを種々に検討したいと考えている。研究の進め方としては、本研究会の構成員を中心とし、特に漢文仏教要語に関心を持つ研究者や院生を加えた研究会を、月一回程度開催し、テーマである「仏教における生死観に関する学術用語の研究」に関する発表を行う（公開可）。手法としては、原則として、経典の原意・註釈書の解釈を並記し、その他の特徴的な要素も加えながら発表を行い、参加者同士の議論を通して、さらに洗練された内容にしていく。年次研究において「生死」の要語に関する研究成果については、『佛教文化研究所紀要』に発表したい。この作業を継続的に行うことにより、いずれは「仏教における生死観の研究」としてまとめることも考えている。また、漢文仏典や仏教要語に関するテーマで「仏教文化セ

〝ナー」を開催したいと考えている。

3、仏教経典の翻訳と研究

主任・デニス　ヒロタ　　研究員四四名

（研究の目的）

Purpose of the Center

—to encourage and support the translation and/or publication of writings that will further the understanding of Pure Land Buddhist thought and teachings in broad international perspectives. Such writings, which will be published through the Center as Center publications, include:

・primary Buddhist texts(sutras, treatises, traditional commentaries, significant historical writings);

・modern secondary literature on Pure Land Buddhist thought and teachings, including both scholarly and popularly oriented approaches;

・comparative and interreligious treatments of Pure Land Buddhist thought and teachings.

Because academic treatments of Pure Land Buddhist tradition undertaken in other parts of the world are at present primarily historical and sociological in methodology and have adequate venues for publication elsewhere, the Center feels a particular commitment to approaches treating Japanese Pure Land Buddhist thought in contemporary interpretive, comparative, theological, and philosophical perspective.

Activities of the Center

—the major activity of the Center is the preparation and review of translations of primary Buddhist texts that further the understanding of Pure Land Buddhist tradition, particularly the Japanese tradition.

—the Center also encourages the preparation of publication as Center publications translations and original secondary studies that advance its basic aims.

—the Center will sponsor public lectures, workshops, and symposia that advance its basic aims. Such presentations will be published as monographs and edited volumes through the Center as Center publications.

Activities of the Center during 2010-2011

During this period, two translations will be reviewed at the weekly general meetings: *Muryōju nyorai-e* and *Hasshū kōyō*.

A workshop related to the discussion of Shin Buddhist thought in a contemporary, comparative context will be planned, with the results of the presentations published from the Center.

Manuscripts will be sought, particularly from Shin Buddhist ministers abroad, to continue the Dharma Talk Series aimed at a popular audience.

Selected publications from the Center will be made accessible online. This should acquaint readers around the world with the Center and increase sales of Center publications.

Efforts will be made to increase sales of publications through Shin temples and temple bookstores abroad.

E　個人研究

1、古代倭国王の宗教的動機についての研究

平林　章仁

（研究の目的）

六世紀前葉に百済国王から倭国に仏教が贈られた際、倭国王はその信仰の受容をめぐり、臣下に諮問して自ら決することは出来なかったと『日本書紀』は伝えている。結果、頑強な反対意見に従って、倭国王はその受容を拒んだという。そうした状況ははは一世紀近くも存続し、倭国王の仏教信仰受容には長い時間が必要であった。このことは、仏教は百済・倭国の国家間交渉の一環としてわが国に贈られ、国家としては受容しているのである。

すなわち、倭国王が仏教信仰の受容を拒否したのは、倭国王と倭国王権に原因があるということである。従前はこれを執政官氏族の権力闘争や神祇対仏教という視点から解されてきたが、倭国王と倭国王権の本質を探らなければそのことの真の姿は見えてこないと考えられる。

こうした視点に基づき、本研究では、仏教信仰の受容を拒否した倭国王とその王権の特質を解明することから、いわゆる仏教公伝をめぐる歴史情況について新たな解釈を試みてみたい。

研究史の整理を進めるとともに、とくに仏教公伝以前の倭国王と倭国王権の特質、それらにおける宗教的要素の在り様について考察を進める。

それによって、倭国における国家形成上の宗教の働き、倭国王が仏教信仰を拒否した事情、さらには倭国王の仏教信仰受容の歴史的意義などが明らかになると考える。

（研究計画）

◇平成二十三年度　兼任・客員研究員〈新規〉◇（順不同）

平田班

上野　大輔（本学非常勤講師）

大取班

内田美由紀（今宮工科高校教諭）

吉田　唯（大阪大谷大学非常勤講師）

加美　甲多（同志社女子高校非常勤講師）

斎藤美津子（元京都市役所嘱託）

桂班

ディワカル　アーチャールヤ（京都大学文学研究科准教授）

ドラムドゥル（中国蔵学研究中心副所長）

吉川班

吉川　悟（本学文学部教授）

友久　久雄（本学文学部教授）

林　智康（本学文学部教授）

滋野井一博（本学文学部教授）

吾勝　常行（本学文学部教授）

赤田　太郎（本学短期大学部講師）

小正　浩徳（臨床心理相談室カウンセラー）

児玉　龍治（本学文学部准教授）

李　光濬（車丙心理学研究所所長）

伊東　秀章（本学大学院研究生・非常勤講師）

佐藤班

佐藤　智水（本学文学部教授）

市川　良文（本学文学部准教授）

北村　一仁（本学非常勤講師）

倉本　尚徳（本学アジア仏教文化センターＰＤ）

栗三　直隆（光明寺住職・富山県日中友好協会副会長）

西村　信也（西法寺住職）

藤井麻由子（日本学術振興会特別研究員）

林班

井上　見淳（本学文学部講師）

岩田　真美（本学文学部講師）

芳村班

長谷川岳史（本学経営学部准教授）

後藤　康夫（本学非常勤講師）

新倉　和文（大阪桐陰中学高等学校客員教諭）

林　徳立（正眼短期大学非常勤講師）

赤松班

中西　直樹（本学文学部准教授）

斎藤　信行（本学非常勤講師）

入澤班

山本　孝子（京都大学非常勤講師）

王　振芬（旅順博物館副館長）

荻原　裕敏（中国人民大学国学院西域語言歴史研究所講師）

那須　良彦（本学非常勤講師）

房　学恵（旅順博物館副館長）

浅田班

亀山　隆彦（本学大学院文学研究科研究生）

鍵和田聖子（本学大学院文学研究科研究生）

日種　信隆（興隆学林講師・本学大学院修士課程修了）

ヒロタ班

溪　英俊（本学大学院文学研究科研究生）

Mark Csiksezentmihalisy（カリフォルニア大学教授）

個人研究

平林　章仁（本学文学部教授）

付属研究センター

児玉　龍治（本学文学部准教授）

伊東　秀章（本学大学院文学研究科研究生・非常勤講師）

二〇一一年度龍谷大学沼田奨学金研究奨学金受給者及び外国人客員研究員

氏　名　ロナルド　デイヴィッドソン氏（アメリカ　フェアフィールド大学宗教学科教授）

研究課題　日本における陀羅尼研究

指導教授　桂紹隆文学部教授

研究期間　二〇一一年四月一日～二〇一一年四月三十日

氏　名　ニル　シャムスン　ナハル氏（バングラデシュ　国立博物館公教育局副局長）

研究課題　古代ベンガルと日本の仏教装飾美術―比較研究―

指導教授　若原雄昭理工学部教授

研究期間　二〇一一年四月二十五日～二〇一一年六月二十五日

氏　名　姚　治華氏（中国　香港中文大学准教授）

研究課題　非存在の認識

指導教授　桂紹隆文学部教授

研究期間　二〇一一年七月一日～二〇一一年八月三十一日

氏　名　林　韻柔氏（台湾　中興大学

人文与社会科学研究センター
ポストドクター研究員、東海大学歴史学系兼任助理教授）
研究課題　中日仏教聖山信仰と巡礼活動
指導教授　木田知生文学部教授
研究期間　二〇一一年七月十日～二〇一二年三月九日
氏　名　李　学竹氏（中国　中国蔵学研究中心宗教研究所副研究員）
研究課題　チャンドラキールティ著『入中論』偈頌の梵漢蔵対照研究
指導教授　桂紹隆文学部教授
研究期間　二〇一一年九月一日～二〇一一年十月三十一日
氏　名　黄　維忠氏（中国　中国蔵学研究中心『中国蔵学』編集部副研究員）
研究課題　吐蕃社会風習に対する仏教の影響
指導教授　三谷真澄国際文化学部准教授
研究期間　二〇一一年九月一日～二〇一一年十月三十一日
氏　名　ハルオ　ヤマオカ氏（アメリカ　米国仏教大学院准教授、元浄土真宗本願寺派北米開教区総長）
研究課題　浄土真宗の国際的伝道の場における実践真宗学の可能性
指導教授　川添泰信文学部教授
期　間　二〇一一年十月十日～二〇一一年十一月十日

二〇一一年度龍谷大学外国人客員研究員
氏　名　ジェイソン　アヴィ　プロタス氏（アメリカ　スタンフォード大学大学院博士後期課程、非常勤講師）
研究課題　東アジア仏教研究
指導教授　木田知生文学部教授
研究期間　二〇一一年五月一日～二〇一二年四月三十日

◇研究所日誌◇

―平成二十二年度（後期）―

十二月九日（木）　午後四時四十五分～午後六時十五分
第十一回研究談話会（入澤研究班）
会　場　大宮学舎西餐二階大会議室
講　題　モンゴル国最古のチベット仏教寺院エルデニゾー研究の現状とその意義
講　師　村岡倫氏（本学文学部教授）

十二月十七日（金）　午後三時～午後四時三十分
第十二回研究談話会（ヒロタ研究班）
会　場　大宮学舎西餐二階大会議室
講　題　如来会の諸問題
講　師　大田利生氏（本学文学部教授）

十二月二十日（月）　午後五時～
第十三回研究談話会（赤松研究班）
会　場　大宮学舎西餐三階小会議室
講　題　吉祥寺の不動明王及び二童子像―新出・異形の神仏習合像―
講　師　大河内智之氏（和歌山県立博物館学芸員）

十二月二十一日（火）　午後一時十五分～午後四時三十分
第十四回研究談話会（入澤研究班）
会　場　大宮学舎清和館三階ホール
講　題　アフガニスタンの文化財
講　師　オマラ・ハーン・マスーディ氏（アフガニスタン国立博物館館長）
講　題　敦煌の文化財
講　師　樊錦詩氏（中国敦煌研究院院長）
講　題　科学技術で甦る仏教世界
講　師　岡田至弘氏（本学理工学部教授）

十二月二十三日（木）　午後三時～午後六時
第八回仏教文化セミナー
会　場　大宮学舎清風館二〇五教室
講　題　中国蔵学研究中心訪問報告
講　師　桂紹隆氏（本学文学部教授）
若原雄昭氏（本学理工学部教授）
講　題　五百頌般若写本解読の問題点
講　師　藤田祥道氏（本研究所客員研究員）
李学竹氏（本研究所客員研究員）

一月十三日（木）　午後四時四十五分～午後六時十五分
第九回仏教文化セミナー
会　場　大宮学舎北餐一〇三教室
講　題　真宗寺院の一枚摺について
講　師　万波寿子氏（本学非常勤講師）

一月二十六日（水）　午後十二時三十分～午後一時十分
第十回運営会議開催
1．二〇一〇年度兼任研究員の減員について
2．二〇一一年度沼田奨学金（研究奨学金）受給および外国人客員研究員任用予定者の期間変更について
3．二〇一一年度外国人客員研究員任用予定者の辞退について
4．二〇一一年度仏教文化講演会について
5．五十周年記念事業について

二月十七日（木）　午後四時～午後五時
第十五回研究談話会（個人研究）
会　場　大宮学舎北餐一〇一教室
講　題　寺院活動における新たな「心理的援助」―相談窓口機能の可能性―
講　師　吉川悟氏（本学文学部教授）

三月十五日（火）　午後十二時～午後十二時四十五分
第十一回運営会議開催
1．二〇一一年度沼田奨学金（研究奨学金）受給および外国人客員研究員任用予定者の期間変更について
2．二〇一一年度外国人客員研究員任用予定者の期間変更について

3．二〇一一年度外国人客員研究員の任用について
4．二〇一一年度運営体制・運営会議構成員について
5．二〇一一年度兼任研究員・客員研究員について
6．五十周年記念講演会について）

―平成二十三年度（前期）―

四月二十七日（水）　午後十二時三十分～午後二時
第一回運営会議開催
1．二〇一一年度研究体制・役員について
2．二〇一一年度兼任・客員研究員等の追加・変更について
3．二〇一一年度研究所予算について
4．仏教文化研究所紀要第五十集・所報第三十五号の執筆予定者について
5．二〇一一年度仏教文化講演会・仏教文化セミナー・研究談話会の開催について
6．二〇一一年度外国人客員研究員の来日延期について
7．二〇一〇年度研究ＰＪ研究年次経過報告書の審査について
8．創設五十周年記念事業について

六月一日（水）　午後十二時五十分～午後一時十分
第二回運営会議開催
1．二〇一〇年度研究ＰＪ年次経過報告書の審査について
2．二〇一〇年度研究ＰＪ年次経過報告書に関するヒアリングについて
3．二〇一一年度沼田奨学金（研究奨学金）受給および外国人客員研究員任用予定者の期間変更について
4．図書の購入について
5．創設五十周年記念講演会・懇親会について

六月二十二日（水）　午後十二時四十五分～午後一時四十分
第三回運営会議開催
1．中国蔵学研究中心との学術研究交流促進に関する協定の締結について
2．五十周年記念講演会・懇親会について

六月二十五日（土）　午後三時～
第一回研究談話会（個人研究）
会　場　大宮学舎北黌一〇二教室
講　題　倭国王（天皇）の宗教的権威の由来―天皇は日の御子か―
講　師　平林章仁氏（本学文学部教授）

七月八日（金）　午前十時四十五分～午後四時三十分
龍谷大学仏教文化研究所創設五十周年記念講演会「仏教の未来」
会　場　大宮学舎清和館三階ホール
講　題　未来における仏教の所在を問う―地方仏教とグローバル仏教との間主観性―
講　師　マーク・ブラム氏（ニューヨーク州立大学アルバニー校東アジア研究学部教授）
講　題　中世知識人の文学―『海道記』の一端―
講　師　三角洋一氏（東京大学大学院総合文化研究科教授）
講　題　現代とのつながり―心を見つめ心をみがく―
講　師　養輪顕量氏（東京大学大学院人文社会系研究科教授）

七月十二日（火）　午後六時～午後七時三十分
第二回研究談話会（林研究班）
会　場　大宮学舎西黌三階小会議室
講　題　証果論の解釈をめぐって
講　師　井上善幸氏（本学法学部准教授）

七月二十日（水）　午後十二時三十分～午後一時五分
第四回運営会議開催
1．二〇一二年度研究プロジェクト募集について
2．二〇一二年度専任研究員の募集について
3．二〇一二年度善本叢書・仏教文化研究所叢書の出版助成募集について
4．二〇一一年度沼田奨学金（研究奨学金）及び外国人客員研究員の辞退について

八月二日（火）　午後四時三十分～午後六時
第三回研究談話会（林研究班）
会　場　大宮学舎清風館三〇一・三〇二共同研究室
講　題　現代における真宗伝道の課題
講　師　葛野洋明氏（本学文学部教授）
講　題　須弥山説と現代
講　師　高田文英氏（本学文学部講師）

八月二十九日（月）　午後三時～午後四時三十分
第四回研究談話会（林研究班）
会　場　大宮学舎西黌三階小会議室
講　題　真宗文献学の一視点―普遍性と個別性―
講　師　殿内恒氏（本学社会学部教授）
講　題　親鸞思想における大行・大信の思想
講　師　玉木興慈氏（本学短期大学部准教授）

九月二十九日（木）　午後五時三十分～午後七時
第五回研究談話会（平田研究班）
会　場　大宮学舎清風館共同研究室一
講　題　神祇礼拝論争と近世真宗の異端性―讃岐国における了空・教乗論争の検討を通じて―
講　師　小林准士氏（島根大学法文学部准教授）

十月十二日（水）　午後十二時三十分～午後一時十五分
第五回運営会議開催
1．二〇一二年度沼田奨学金（研究奨学金）受給者の推薦審査および外国人客員研究員の任用について
2．第七十七回仏教文化講演会について

3．図書費について
4．仏教文化セミナーについて

十月二十日（木）　午後六時三十分～午後八時
第六回研究談話会（赤松研究班）
会　場　大宮学舎本館二階会議室
講　題　覚如の親鸞像
講　師　斎藤信行氏（本学非常勤講師）

十月二十六日（水）　午後十二時三十分～
第六回運営会議開催
1．第十回仏教文化セミナーについて
2．二〇一二年度専任研究員について
3．二〇一二年度出版助成（善本叢書・研究叢書）の予算案について
4．仏教文化研究所規程の改正について
5．二〇一二年度研究プロジェクト採用審査について

十一月二十四日（木）　午後四時四十五分～午後六時十五分
第十回仏教文化セミナー
会　場　大宮学舎西黌大会議室
講　題　龍谷大学図書館蔵中世貴重歌書五点の特長と問題点
講　師　大取一馬氏（本学文学部教授）

十二月五日（月）　午前十時四十五分～午後十二時三十分
第七十七回仏教文化講演会
会　場　アバンティ響都ホール
講　題　日本人の死生観と超越
講　師　カール・ベッカー氏（京都大学こころの未来研究センター教授）

十二月九日（金）　午後四時～午後六時
第七回研究談話会（桂研究班）
会　場　大宮学舎清風館二階二〇五情報実習室
講　題　龍谷大学における梵語仏典写本研究の現状
講　師　桂紹隆氏（本学文学部教授）
講　師　藤田祥道氏（本学客員研究員）
講　師　李学竹氏（本学客員研究員）

十二月九日（金）　午後三時～午後五時
第八回研究談話会（ヒロタ研究班）
会　場　大宮学舎本館一階応接室
講　題　無量寿経と如来会
講　師　大田利生氏（本学名誉教授）

十二月十五日（木）　午後五時～午後六時
第九回研究談話会（吉川研究班）
会　場　大宮学舎西黌別館五階カンファレンスルーム
講　題　仏教とカウンセリングの理論と実践―仏の教えと心の癒し―
講　師　友久久雄氏（本学文学部教授）
講　師　赤田太郎氏（本学短期大学部講師）

平成二十三年十二月二十六日発行
龍谷大学　仏教文化研究所
代表者　中　川　修
〒六〇〇―八二六八
京都市下京区七条通大宮東入
大工町一二五―一
電話〇七五(343)三三一一(代)
内線五四〇〇

仏教文化研究所規程

設　立　昭和三六年四月一日
設　立　昭和三六年四月一日
制　定　昭和六三年一二月一日
一部改正　平成四年一月一六日
平成六年六月九日
平成一一年一二月二五日
平成一三年九月二七日
平成一四年五月一六日
平成一五年五月一五日
平成一九年七月五日

第一章　総　則

第一条　この規程は、龍谷大学学則第七〇条に定める仏教文化研究所（以下「仏文研」という。）について、その組織及び運営等必要な事項を定めることを目的とする。

第二条　仏文研は、龍谷大学大宮学舎内に置く。

第三条　仏文研は、仏教文化及びその関連領域に関する総合的学術研究並びに国際的研究交流を行い、もって学術研究の向上に寄与することを目的とする。

第四条　仏文研は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

(1)　仏教文化及びその関連領域に関する研究・調査

(2)　研究・調査に必要な図書・資料及び情報の収集、管理

(3)　紀要、叢書、所報等研究成果の刊行

(4)　研究会、公開講座、講演会等の開催

(5)　国内外の大学及び研究機関との研究交流

(6)　その他前条の目的を遂行するために必要な事業

第二章　運営会議

第五条　仏文研に、重要な事項について審議・決定するため、仏教文化研究所運営会議（以下「運営会議」という。）を置く。

二、次の各号に掲げる事項は、運営会議において決定する。

(1)　事業計画に関すること。

(2)　研究所予算に関すること。

(3)　指定研究、プロジェクト研究の設置・廃止に関すること。

(4)　研究員及び委託研究員の受入れに関すること。

(5)　その他仏文研における重要な事項

第六条　運営会議は、次の各号に掲げるもので構成する。

(1)　所長及び副所長　六名

(2)　文学部教授会が選任する者　一名

(3)　短期大学部教授会が選任する者　若干名

(4)　学長が指名する者

(5)　専任研究員

(6)　研究部事務部長

二、前号第二号、第三号、第四号及び第五号による者の任期は、一年とする。ただし、再任を妨げない。

第七条　運営会議は、所長が必要と認める都度招集し、所長は会議の議長となる。

第八条　運営会議は、構成員の過半数の出席により成立し、議事は出席者の過半数の同意により決定する。

第三章　組　織

第九条　仏文研に研究調査部及び事業部を設ける。

二、研究調査部は、第四条に規定する事業のうち、研究及び調査並びに各指定研究及び各プロジェクト研究の推進・調整に関する事業を分担する。

三、事業部は、第四条に規定する事業のうち、資料の収集・整理及び研究成果の公刊並びに研究交流等に関する事業を分担する。

第一〇条　仏文研に、特定の課題を研究する指定研究を置く。

第一一条　仏文研に、常設研究プロジェクト・特別指定研究プロジェクト及び時限研究プロジェクトを置く。

二、常設研究プロジェクトは、次のとおりとする。

(1)　真宗学研究プロジェクト

(2)　仏教学研究プロジェクト

(3)　仏教史学研究プロジェクト

三、特別指定研究プロジェクトは、次のとおりとする。

(1)　西域文化研究会

(2)　大典翻訳研究会

(3)　大蔵経学術用語研究会

四、時限研究プロジェクトは、必要の都度設置する。

第一二条　仏文研に設置する指定研究及びプロジェクト研究は、研究の活性化・高度化を推進するために運営会議が必要と認める場合「付属研究センター」を呼称することができる。

二、付属研究センターの運営等については別途に定める。

第四章　職員組織

第一三条　仏文研に、所長及び副所長各一名を置く。

二、所長は、仏文研の業務を統括し、仏文研を代表する。

三、副所長は、所長を補佐し、所長事故ある時はその職務を代理する。

四、所長及び副所長は、運営会議の推薦する者に対して、学長が任命する。

五、所長及び副所長の任期は、二年とする。ただし再任を妨げない。

第一四条　第九条に定める部に、主任一名を置く。

二、主任は、各部の業務を調整処理する。

三、主任は、本学（短期大学部を含む。以下、同じ。）の専任教育職員の内から、運営会議において選任する。

第一五条　第一一条に定める研究プロジェクトには、それぞれ主査一名を置く。

二、主査は、当該研究プロジェクトを主宰し、その活動を調整推進する。

三、主査は、本学専任教育職員の内から、運営会議において選任する。

第一六条　運営会議の決定事項の執行及び委任事項の処理並びに日常業務の連絡・調整を図るため、所長のもとに常任委員会を置く。

二、常任委員会は、次の各号の者で構成する。

(1)　第一四条に定める主任

(2)　所長及び副所長

(3)　運営会議が選任する者　若干名

(4)　仏文研課長

三、常任委員会には、必要に応じて主査を加えることができる。

第五章　研　究　員

第一七条　仏文研に、次に掲げる研究員を置く。

(1)　専任研究員

(2)　兼任研究員

(3)　客員研究員

(4)　嘱託研究員

第一八条　専任研究員は、仏文研に所属する専任教育職員で、専ら研究・調査に従事する者をいう。

二、専任研究員の任用については、別に定める。

第一九条　兼任研究員は、仏文研の活動に参加する本学の専任教職員をいう。

二、兼任研究員は、所長が候補者を推薦し、学長が委嘱する。ただし、その候補者が専任教育職員である場合は、その候補者の所属する教授会の承認を得るものとする。

三、専任教職員は所長に対して、兼任研究員となることを願出ることができるものとする。

四、兼任研究員の任期は、一年間又は二年間とする。ただし、再任を妨げない。

第二〇条　客員研究員は、学外の研究者でその身分のまま一定期間仏文研に所属して、研究・調査活動に従事する者をいう。

二、客員研究員は、所長が候補者を推薦し、運営会議の承認を経て、学長が委嘱する。

第二一条　嘱託研究員は、前三条に規定する以外の者で仏文研の活動に参加する者をいう。

二、嘱託研究員の任用は、前条第二項の規程を準用する。

第二二条　仏文研は、受託研究員を受入れることができる。

二、受託研究員の受入れについては、別に定める。

第六章　補　則

第二三条　仏文研に、仏文研の事務を処理するため仏文研事務室を置く。

二、仏文研事務室に、必要な事務職員を置く。

第二四条　この規程の改正又は廃止は、運営会議の発議により大学評議会において決定する。

付　則

一、この規程は、昭和六三年一二月一日から施行する。

二、この規程の施行に伴い、従前の仏教文化研究所規程（昭和六三年四月一日施行）は、廃止する。

三、この規程施行当初の所長は、第一二条の規定にかかわらず従前の規定による所長があたるものとし、運営会議は、第六条の規定にかかわらず従前の規定による協議委員を以て構成するものとする。

付　則（平成四年一月一六日題名、第一条改正）

この規程は、平成四年一月一六日から施行する。

付　則（平成六年六月九日第六条改正）

この規程は、平成六年六月九日から施行する。

付　則（平成一一年一二月二五日第一一条改正）

この規程は、平成一二年四月一日から施行する。

付　則（抄）（平成一三年九月二七日第六条改正）

一、この規程は、平成一三年四月一日から施行する。

付　則（平成一四年五月一六日第六条改正）

この規程は、平成一四年四月一日から施行する。

付　則（平成一五年五月一五日第一五条改正）

一、この規程は、平成一五年四月一日から施行する。

二、この規程の施行に伴い、現に、仏教文化研究所事務室事務長にある者は、この規程による課長とみなす。

付　則（平成一九年七月五日第一二条新設、第一三条以下繰下、第一六条改正）

この規程は、平成一九年七月五日から施行する。

Aus der Schule der Sarvāstivādins. Text, Übersetzung, Anmerkungen und Indizes. [unpublished habilitation thesis].

SHT = *Sanskrithandschriften aus den Turfanfunden*. Teil 1-4, Wiesbaden; Teil 5-10, Stuttgart: Franz Steiner, 1965-2008.

SIMSON, Georg von

2000 *Prātimokṣasūtra der Sarvāstivādins. Teil II: Kritische Textausgabe, Übersetzung, Wortindex*. (Sanskrittexte aus den Turfanfunden, XI). Göttingen: Vandenhoeck & Ruprecht.

WILLE, Klaus

2005 Survey of the Sanskrit manuscripts in the Turfan collection. Lecture held at the conference *Digitalisierung der chinesischen, tibetischen, syrischen und Sanskrit-Texte der Berliner Turfansammlung*, June 2, 2005, Berlin. See http://www.bbaw.de/bbaw/Forschung/Forschungsprojekte/turfanforschung/de/IDPBerlin.

◇研究所収書目録◇

〈平成二二年度登録図書一覧〉

081/ ＲＹＵ /26 仏教とカウンセリング／友久久雄編

414.6/ ＫＯＹ / 高野山壇上伽藍整備事業（中門再建事業）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書／高野町教育委員会，元興寺文化財研究所編

011.2/ ＧＡＮ / 金剛寺の版木：(財)大和文化財保存会援助事業による／元興寺文化財研究所［編］［正篇］

023/1161/10-1 俄羅斯國立艾爾米塔什博物館藏黑水城藝術品／俄羅斯國立艾爾米塔什博物館，西北民族大學，上海古籍出版社編纂

081/ ＫＯＮ /104 『痛みの情報処理過程における鍼鎮痛の作用機序』：多チャンネル脳波計による責任部位の同定

081/ ＫＯＮ /105 バルク敏感光電子分光による１次元構造を持つホーランダイト型バナジウム酸化物に見られる金属絶縁体転移の起源解明

488.2/ ＯＫＡ / 八色の姓と古代氏族／岡森福彦著

208/ ＳＴＭ /25 Crossfire : Shingon-Tendai strife as seen in two twelfth-century polemics, with special references to their background in Tang China / Jinhua Chen

208/ ＳＴＭ /26 The theory of karman in the Abhidharmasamuccaya / Achim Bayer

422.004/ ＴＯＮ /11 敦煌吐魯番研究 第 11 巻／香港中華文化促進中心等合辦

422.035/ ＴＯＫ /15 唐研究 第 15 巻／榮新江主編

011.2/ ＧＡＮ / 金剛寺の版木：(財)大和文化財保存会援助事業による / 元興寺文化財研究所［編］摺写物篇

266.8/ ＣＨＩ /15 智山の真言：常用経典における真言の解説

017.3/ ＩＮＴ /12 List of publications received / [International College for Advanced Buddhist Studies Library] no. 12

422.2/ ＫＡＫ / 敦煌學國際聯絡委員會通訊 2008 = Newsletter of International Liaison Committee for Dunhuang Studies／郝春文主編；周尚兵副主編

574/ ＫＩＩ / 高野山麓の六斎念仏／紀伊山地の霊場と参詣道関連地域伝統文化伝承事業実行委員会編集

241/ ＨＡＣ /1 팔만대장경 해제／[사회과학원 민족고전연구소편] 1

241/ ＨＡＣ /2 팔만대장경 해제／[사회과학원 민족고전연구소편] 2

241/ ＨＡＣ /3 팔만대장경 해제／[사회과학원 민족고전연구소편] 3

241/ ＨＡＣ /4 팔만대장경 해제／[사회과학원 민족고전연구소편] 4

241/ ＨＡＣ /5 팔만대장경 해제／[사회과학원 민족고전연구소편] 5

241/ ＨＡＣ /6 팔만대장경 해제／[사회과학원

	민족고전연구소편] 6
241/ H A C /7	팔만대장경 해제／[사회과학원 민족고전연구소편] 7
241/ H A C /8	팔만대장경 해제／[사회과학원 민족고전연구소편] 8
241/ H A C /9	팔만대장경 해제／[사회과학원 민족고전연구소편] 9
241/ H A C /10	팔만대장경 해제／[사회과학원 민족고전연구소편] 10
241/ H A C /11	팔만대장경 해제／[사회과학원 민족고전연구소편] 11
241/ H A C /12	팔만대장경 해제／[사회과학원 민족고전연구소편] 12
241/ H A C /13	팔만대장경 해제／[사회과학원 민족고전연구소편] 13
241/ H A C /14	팔만대장경 해제／[사회과학원 민족고전연구소편] 14
241/ H A C /15	팔만대장경 해제／[사회과학원 민족고전연구소편] 15
023.476/15/	法華経関係雑誌論文データベース：立正大学法華経文化研究所蒐集／[立正大学法華経文化研究所制作] 1900年-1969年
422.2/SAN/1	山西通志，184巻／(清) 王軒等纂修 第1冊：序言目録
422.2/SAN/2	山西通志，184巻／(清) 王軒等纂修 第2冊：巻1至巻3
422.2/SAN/3	山西通志，184巻／(清) 王軒等纂修 第3冊：巻4至巻8
422.2/SAN/4	山西通志，184巻／(清) 王軒等纂修 第4冊：巻9至巻13
422.2/SAN/5	山西通志，184巻／(清) 王軒等纂修 第5冊：巻14至巻22
422.2/SAN/6	山西通志，184巻／(清) 王軒等纂修 第6冊：巻23至巻30
422.2/SAN/7	山西通志，184巻／(清) 王軒等纂修 第7冊：巻31至巻39
422.2/SAN/8	山西通志，184巻／(清) 王軒等纂修 第8冊：巻40至巻49
422.2/SAN/9	山西通志，184巻／(清) 王軒等纂修 第9冊：巻50至巻57
422.2/SAN/10	山西通志，184巻／(清) 王軒等纂修 第10冊：巻58至巻69
422.2/SAN/11	山西通志，184巻／(清) 王軒等纂修 第11冊：巻70至巻80
422.2/SAN/12	山西通志，184巻／(清) 王軒等纂修 第12冊：巻81至巻88
422.2/SAN/13	山西通志，184巻／(清) 王軒等纂修 第13冊：巻89至巻100
422.2/SAN/14	山西通志，184巻／(清) 王軒等纂修 第14冊：巻101至巻107
422.2/SAN/15	山西通志，184巻／(清) 王軒等纂修 第15冊：巻108至巻115
422.2/SAN/16	山西通志，184巻／(清) 王軒等纂修 第16冊：巻116至巻125
422.2/SAN/17	山西通志，184巻／(清) 王軒等纂修 第17冊：巻126至巻135
422.2/SAN/18	山西通志，184巻／(清) 王軒等纂修 第18冊：巻136至巻142
422.2/SAN/19	山西通志，184巻／(清) 王軒等纂修 第19冊：巻143至巻152
422.2/SAN/20	山西通志，184巻／(清) 王軒等纂修 第20冊：巻153至巻161
422.2/SAN/21	山西通志，184巻／(清) 王軒等纂修 第21冊：巻162至巻173
422.2/SAN/22	山西通志，184巻／(清) 王軒等纂修 第22冊：巻174至巻184
410.08/DOS/7	軍事援護の世界：軍隊と地域社会／郡司淳著
105.2/OTA/	今、ここに生きる仏教／大谷光真，上田紀行著
196.1/DOH/	誰も書かなかった親鸞：「伝絵の真実」／同朋大学仏教文化研究所編
712.61/KOD/	西本願寺御影堂「平成の大修復」全記録：一九九九-二〇〇九／講談社編
567/OZA/	発達障害とその周辺の子どもたち：発達促進の基礎知識／尾崎洋一郎，尾崎誠子著；草野和子イラスト
241.3/FUJ/	現代語訳妙法蓮華経／藤井教公訳
557.9/YAM/	暴力・いじめと教育／山口治著
567/KUG/	発達障害の教育相談：理解深化への手びき／久我利孝著
560.14/HIG/	通じ合うことの心理臨床：保育・教育のための臨床コミュニケーション論／肥後功一著
410.1/ANZ/	旧石器時代の地域編年的研究／安斎正人，佐藤宏之編
567/EGU/	ことばを生きる力に：心身障害学級・養護学校詩文集 第1集／江口季好編
567.4/EGU/	知的障害者の青年期への自立をめざして／江口季好編
567/OIS/	コミュニケーション障害の心理／大石益男編著
696.9/ISH/	子どものリハビリテーション／石田三郎著
410.08/DOS/1	志士の行方：斎藤壬生雄の生涯／丑木幸男著
410.08/DOS/2	学童疎開／内藤幾次著
410.08/DOS/3	理想の村を求めて：地方改良の世界／郡司美枝著
410.08/DOS/4	日本の朝鮮・韓国人／樋口雄一著
410.08/DOS/5	青年の世紀／多仁照廣著

410.08/DOS/6 一訓導の学童疎開日誌／岡本喬著
410.08/DOS/8 東京府立中学／岡田孝一著
410.08/DOS/9 近代日本の戦争と詩人／阿部猛著
410.08/DOS/10 近代知識人の西洋と日本：森口多里の世界／秋山真一著
410.08/DOS/12 貴族院／内藤一成著
410.08/DOS/13 日本の植民地支配と朝鮮農民／樋口雄一著
150.2/YAS/1 呼びかけと目覚め：名号：Grundwort／安田理深著；相應学舎編
150.2/YAS/2 親鸞における主体の問題：信心：Glaube／安田理深著；相應学舎編
150.2/YAS/3 仏教の人間像：仏弟子：Menschlichkeit／安田理深著；相應学舎編
150.2/YAS/4 存在の故郷：浄土：Heimat／安田理深著；相應学舎編
150.2/YAS/5 親鸞の宗教改革：共同体：Gemeinschft／安田理深著；相應学舎編
150.2/YAS/6 親鸞における時の問題：歴史：Zeitlichkeit／安田理深著；相應学舎編
081/RYU/21 日本仏教史における「仏」と「神」の間／赤松徹眞編
427/NEW/1 The formation of the Islamic world, sixth to eleventh centuries / edited by Chase F. Robinson
427/NEW/2 The western Islamic world, eleventh to eighteenth centuries / edited by Maribel Fierro
427/NEW/3 The eastern Islamic world, eleventh to eighteenth centuries / edited by David O. Morgan and Anthony Reid
427/NEW/4 Islamic cultures and societies to the end of the eighteenth century / edited by Robert Irwin
427/NEW/5 The Islamic world in the age of Western dominance / edited by Francis Robinson
427/NEW/6 Muslims and modernity : culture and society since 1800 / edited by Robert W. Hefner
360.8/LIB/1 New religions and spiritualities / edited by Stephen Hunt
360.3/REL/1 Religions of the world : a comprehensive encyclopedia of beliefs and practices v. 1 / J. Gordon Melton, Martin Baumann, editors ; world religious statistics [by] Todd M. Johnson ; introduction [by] Donald Wiebe
360.3/REL/2 Religions of the world : a comprehensive encyclopedia of beliefs and practices v. 2 / J. Gordon Melton, Martin Baumann, editors ; world religious statistics [by] Todd M. Johnson ; introduction [by] Donald Wiebe
360.3/REL/3 Religions of the world : a comprehensive encyclopedia of beliefs and practices v. 3 / J. Gordon Melton, Martin Baumann, editors ; world religious statistics [by] Todd M. Johnson ; introduction [by] Donald Wiebe
360.3/REL/4 Religions of the world : a comprehensive encyclopedia of beliefs and practices v. 4 / J. Gordon Melton, Martin Baumann, editors ; world religious statistics [by] Todd M. Johnson ; introduction [by] Donald Wiebe
360.3/REL/5 Religions of the world : a comprehensive encyclopedia of beliefs and practices v. 5 / J. Gordon Melton, Martin Baumann, editors ; world religious statistics [by] Todd M. Johnson ; introduction [by] Donald Wiebe
360.3/REL/6 Religions of the world : a comprehensive encyclopedia of beliefs and practices v. 6 / J. Gordon Melton, Martin Baumann, editors ; world religious statistics [by] Todd M. Johnson ; introduction [by] Donald Wiebe
360.253/ENC/1 Encyclopedia of religion in America v. 1/ Charles H. Lippy, Peter W. Williams, editors
360.253/ENC/2 Encyclopedia of religion in America v. 2/ Charles H. Lippy, Peter W. Williams, editors
360.253/ENC/3 Encyclopedia of religion in America v. 3/ Charles H. Lippy, Peter W. Williams, editors
360.253/ENC/4 Encyclopedia of religion in America v. 4/ Charles H. Lippy, Peter W. Williams, editors
360.2/INT/1 Judaism / Emily Taitz
360.2/INT/2 Confucianism and Taoism / Randall L. Nadeau

360.2/INT/3	Buddhism / John M. Thompson
360.2/INT/4	Christianity / Lee W. Bailey
360.2/INT/5	Islam / Zayn R. Kassam
360.2/INT/6	Hinduism / Steven J. Rosen
081/RYU/28	大谷文書集成　第4巻／小田義久責任編集
081/RYU/29	禿氏文庫本／大取一馬責任編集
050/1085/	愛知学院大学大学院文学研究科文研会紀要 16-18／愛知学院大学大学院文学研究科文研会［編］
050/1085/	愛知学院大学大学院文学研究科文研会紀要 19-21／愛知学院大学大学院文学研究科文研会［編］
051/104/	教化研究　134-136／教化研究所［編］
051/104/	教化研究　137-140／教化研究所［編］
051/104/	教化研究　141-146／教化研究所［編］
050/1074/	釧路論集：北海道教育大学釧路分校研究報告　34-38／北海道教育大学釧路分校
050/1074/	釧路論集：北海道教育大学釧路分校研究報告 39-41／北海道教育大学釧路分校
052/573/	高野山大学大学院紀要／［高野山大学大学院］文学研究科
052/573/	高野山大学大学院紀／［高野山大学大学院］文学研究科
052/535/	駒澤大學禪研究所年報 17-18／駒澤大學禪研究所
052/535/	駒澤大學禪研究所年報 19-20／駒澤大學禪研究所
054/608/	史滴 27-29／早稲田大学東洋史懇話会
054/608/	史滴 30-31／早稲田大学東洋史懇話会
051/125/	宗學院論集　75-77／本願寺派宗學院
051/125/	宗學院論集　78-80／本願寺派宗學院
051/146/	真宗総合研究所研究紀要　22-23／大谷大学［編］
051/146/	真宗総合研究所研究紀要 24-26/ 大谷大学［編］
051/130/	親鸞教学 84-89／大谷大学真宗学会
051/130/	親鸞教学 90-94／大谷大学真宗学会
050/1063/	専修人文論集 78-79／専修大学学会
050/1063/	専修人文論集 80-81／専修大学学会
050/1063/	専修人文論集 82-83／専修大学学会
050/1063/	専修人文論集 84-85／専修大学学会
058/775/	近松研究所紀要／園田学園女子大学近松研究所
058/775/	近松研究所紀要　15-20／園田学園女子大学近松研究所
050/1209/	筑紫女学園大学・筑紫女学園大学短期大学部紀要
050/1209/	筑紫女学園大学・筑紫女学園大学短期大学部紀要
050/109/	天理大学学報 56(1-3), 57(1-3)<207-212>／天理大学人文学会
050/109/	天理大学学報 58(1-3), 59(1-3)<213-218>／天理大学人文学会
050/109/	天理大学学報 60(1-3), 61(1-3)<219-224>／天理大学人文学会
050/599/	東洋学研究 41-42／東洋大学東洋学研究所［編］
050/599/	東洋学研究 43／東洋大学東洋学研究所［編］
050/599/	東洋学研究 44／東洋大学東洋学研究所［編］
050/599/	東洋学研究 45／東洋大学東洋学研究所［編］
054/731/	東洋の思想と宗教 21-24／早稲田大學東洋哲學會
050/1070/	人間文化：愛知学院大学人間文化研究所紀要　19-20／愛知学院大学人間文化研究所
050/1070/	人間文化：愛知学院大学人間文化研究所紀要　21-22／愛知学院大学人間文化研究所
050/1070/	人間文化：愛知学院大学人間文化研究所紀要 23-24／愛知学院大学人間文化研究所
052/380/	佛教文化研究所紀要 44-46／龍谷大学仏教文化研究所［編集］
052/549/	佛教文化研究所紀要 44-46／龍谷大学仏教文化研究所［編集］
052/550/	佛教文化研究所紀要 44-46／龍谷大学仏教文化研究所［編集］
053/391/	北陸宗教文化 18-21／北陸宗教文化研究会［編］
052/391/	密教学研究 36-38／大正大学真言学研究室内日本密教学会事務局
052/391/	密教学研究 39-41／大正大学真言学研究室内日本密教学会事務局
050/334/	横浜市立大学論叢．人文科学系列 56(1-3)／横濱市立大學學術研究會編
050/334/	横浜市立大学論叢．人文科学系列 57(1-3), 58(1-3)／横濱市立大學學術研究會編
050/334/	横浜市立大学論叢．人文科学系列 59(1-3)／横濱市立大學學術研究會編
050/334/	横浜市立大学論叢．人文科学系列 60(1-3)／横濱市立大學學術研究會編
054/771/	立正大学東洋史論集 / 立正大学東洋史研究会
051/53/	龍谷教学 39-42／龍谷教学会議
054/508/	考古 2006(1-4) <460-463>

054/508/	考古 2006(5-8) <464-467>
054/508/	考古 2006(9-12) <468-471>
054/508/	考古 2007(1-4) <472-475>
054/508/	考古 2007(5-8) <476-479>
054/508/	考古 2007(9-12) <480-483>
054/508/	考古 2008(1-4) <484-487>
054/508/	考古 2008(5-8) <488-491>
054/508/	考古 2008(9-12) <492-495>
054/508/	考古 2009(1-4) <496-499>
054/508/	考古 2009(5-8) <500-503>
054/508/	考古 2009(9-12) <504-507>
050/1061/	新疆大学学报. 哲学・人文社会科学版 33(1-3) <117-119> = Journal of Xinjiang University
050/1061/	新疆大学学报. 哲学・人文社会科学版 33(4-6) <120-122> = Journal of Xinjiang University
050/1061/	新疆大学学报. 哲学・人文社会科学版 34(1-3) <123-125> = Journal of Xinjiang University
050/1061/	新疆大学学报. 哲学・人文社会科学版 34(4-6) <126-128> = Journal of Xinjiang University
050/1061/	新疆大学学报. 哲学・人文社会科学版 35(1-3) <129-131> = Journal of Xinjiang University
050/1061/	新疆大学学报. 哲学・人文社会科学版 35(4-6) <132-134> = Journal of Xinjiang University
050/1061/	新疆大学学报. 哲学・人文社会科学版 36(1-3) <135-137> = Journal of Xinjiang University
050/1061/	新疆大学学报. 哲学・人文社会科学版 36(4-6) [138-140] = Journal of Xinjiang University
050/1061/	新疆大学学报. 哲学・人文社会科学版 37(1-3) [141-143] = Journal of Xinjiang University
050/1061/	新疆大学学报. 哲学・人文社会科学版 37(4-6) [144-146] = Journal of Xinjiang University
055/439/	西域研究 2005 (1-4) [57-60] = The Western regions studies
055/439/	西域研究 2006 (1-4) [61-64] = The Western regions studies
055/439/	西域研究 2007 (1-4) [65-68] = The Western regions studies
055/439/	西域研究 2008 (1-4) [69-72] = The Western regions studies
055/439/	西域研究 2009 (1-4) [73-76] = The Western regions studies
054/509/	文物 2005(1-6) [584-589] ／文物編輯委員会
054/509/	文物 2005(7-12) [590-595] ／文物編輯委員会
054/509/	文物 2006(1-6) [596-601] ／文物編輯委員会
054/509/	文物 2006(7-12) [602-607] ／文物編輯委員会
054/509/	文物 2007(1-6) [608-613] ／文物編輯委員会
054/509/	文物 2007(7-12) [614-619] ／文物編輯委員会
054/509/	文物 2008(1-6) [620-625] ／文物編輯委員会
054/509/	文物 2008(7-12) [626-631] ／文物編輯委員会
054/509/	文物 2009(1-6) [632-637] ／文物編輯委員会
054/509/	文物 2009(7-12) [638-643] ／文物編輯委員会
050/1068/	北京大学学报. 哲学社会科学版 42 (1-3) [227-229]
050/1068/	北京大学学报. 哲学社会科学版 42 (4-6) [230-232]
050/1068/	北京大学学报. 哲学社会科学版 43 (1-3) [233-235]
050/1068/	北京大学学报. 哲学社会科学版 43 (4-6) [236-238]
050/1068/	北京大学学报. 哲学社会科学版 44 (1-3) [239-241]
050/1068/	北京大学学报. 哲学社会科学版 44 (4-6) [242-244]
050/1068/	北京大学学报. 哲学社会科学版 45 (1-3) [245-247]
050/1068/	北京大学学报. 哲学社会科学版 45 (4-6) [248-250]
050/1068/	北京大学学报. 哲学社会科学版 46 (1-3) [251-253]
050/1068/	北京大学学报. 哲学社会科学版 46 (4-6) [254-256]

RESEARCH INSTITUTE FOR BUDDHIST CULTURE
Ryukoku University (RIBC)
Kyoto, Japan December 2011.